

ブラジルから、 こんにちは！



ブラジル ツハン市 日系社会青年ボランティアより
日本のみなさまへのおたより 3号

みなさま、Bom dia!! (ぼんじーあ)

JICA 日系社会青年ボランティア 日系日本語教師として、平成24年7月よりブラジルに派遣されています松原有希と申します。

ブラジルの季節は、夏！常夏のイメージのあるブラジルが、さらに暑くなる季節です。この季節になると、日本から遠く離れた場所で暮らしている実感が湧きます。

前回までの発行同様この紙面を通じて、活動の様子やブラジルについてお伝えしていきます。



活動の様子から・・・「いろいろな挑戦」

昨年8～11月は、こどもたちと様々な新しい体験にチャレンジした学期でした。初級クラスでは、ひらがな・カタカナの読み書きや単語習得中心の授業なのですが、「会話をする」時間を設けました。これは、とても簡単なことかと思われるでしょう。しかし、家庭内で日本語を話す機会がほとんどない生徒たちにとっては、なかなか定着するのが難しいことなのです。

そして、初中級クラスでは「漢字検定」受験に挑戦しました。日本でもおなじみのこの検定は、ブラジルでも受験することができるのです。(10～2級まで) 日本の漫画等の影響で、漢字が好きな生徒も増えてきていますが、

アルファベット圏に住む生徒たちにとって、漢字は記号や絵のように見えるため、覚えるコツを探すのは一苦労です。今年はバスで片道3時間以上かけて、受験に出向き、10級に8名が挑戦しました。わたしたち教師もそれぞれ自分のレベルに合わせて受験しました。結果が楽しみです。

学校のイベントから・・・「発表会」

毎年、11月の学期末に修了式と発表会が行われます。幼稚園から成人クラスまで日本語学校の全5クラスが、それぞれ学習の成果を発表します。発表会は、夜7時から！！全員の自己紹介で始まります。幼稚園児のかわいい歌やダンス、学校の生徒は、南中ソーランと早口言葉、成人クラスは群読にそれぞれ挑戦しました。練習時間が少ない中で、本番への不安もあったのですが、ここブラジルのこどもたちは舞台度胸が良く、練習以上の力を本番で見せてくれます。特に心配だった幼稚園児の器楽合奏。かわいらしく、今までで一番の上手な発表ができました。今年は、私自身が担当した演目も多く、当日は汗だくで舞台裏と会場を走り回りました。



私が一番心に残っているのは、「日本語の挨拶」の演目でした。一人一人のこどもたちが、「こんにちは」など挨拶の書かれたプラカードを手に持ち、大きな声で発表していきます。そして、「大切な言葉をいつまでも大事にしていましょ！日本語の勉強頑張りましょ！」と全員で声をあげます。指導された教師の熱い日本語継承への思いが込められている素晴らしい演目で、今思い返しても胸が熱くなります。

ブラジルといえば！その3

みなさん、ブラジルと聞いて、何を想像されますか？

前回まで、サッカー、コーヒー、カーニバル、アマゾン・・・と紹介してきましたが、有名な街「リオデジャネイロ」「年越し」についてお話しします。

「リオデジャネイロ」

日本の皆さんにもよく知られている Rio de Janeiro (こちらの発音ではヒオデジャネイロと読みます)。Rio(川)de(の)Janeiro (1月)、直訳すると「1月の川」という意味になります。

「リオ」といえば、カーニバルや陽気なブラジルの皆さん、ボサノバやサンバのラテンのリズム、コパカバーナ・イパネマなどの青い海辺や水着美女・・・と「ザ・ブラジル」のイメージを持つのは私だけではないと思います。

2012年に世界文化遺産に登録された景観も見れる観光名所「コルコバードの丘」や「ポンジアス・カル」もあり、何度でも訪れたい魅力ある街です。また、国内の連続ドラマの舞台になったり、おしゃれな若者に人気のある街です。また、2016年には夏季オリンピック開催の地も、ここ「リオ」です。



リオデジャネイロでの年越し

ついに今年は念願叶って初めてのリオデジャネイロでの年越しができました。数年前、日本でブラジルの様子を週に1度放送していた番組があ



って、そこでリオの年越し花火を見たのですが、その強烈な印象に、「いつかここで年越しをしてみたい」と漠然と思ったことがあります。そう思うと今ブラジルにいることに不思議な縁を感じます。

新年を迎えるにあたって、白い服を着るのが慣わしとのことで、それにならって出かけました。南米一とも言われるコパカバーナ海岸で年越しの花火を見るのが悲願だった私は、その迫力に圧倒されっぱなしでした。花火はカウントダウン後、沖に設置された10か所以上のポイントから次々と大迫力の花火が15分以上あがり続けます。空のどこを見ても、花火・花火・花火！！そして、その後は波打ち際へ行き、海へ花を捧げ、波を7回飛び越えながら、今年の幸せを願いました。ブラジルでは、「あけましておめでとうございませう！」は、「Feliz Ano Novo!!(フェリース アノノーヴォ！幸せな新年を！)」と言います。知らない人同士も声をかけ合って、新年を祝いました。

毎年、雪降る中で初詣をしている私にとって、暑い夏の年越しは、貴重な体験となりました。



新年が明け、2月から新年度がスタートするブラジル。今年は活動の区切りの年。活動も新たな気持ちで取り組みたいと思っています。

今年は、ワールドカップがブラジル開催のため、日本からの注目度もあがっているのではないのでしょうか？自国開催ならではの雰囲気を感じることが、今から楽しみです。

2014.2

日系社会青年ボランティア平成24年度派遣 ブラジル 松原有希